

月報アルバム

彗星 1966 b, 1967 n

(本文 250 頁の記事参照)



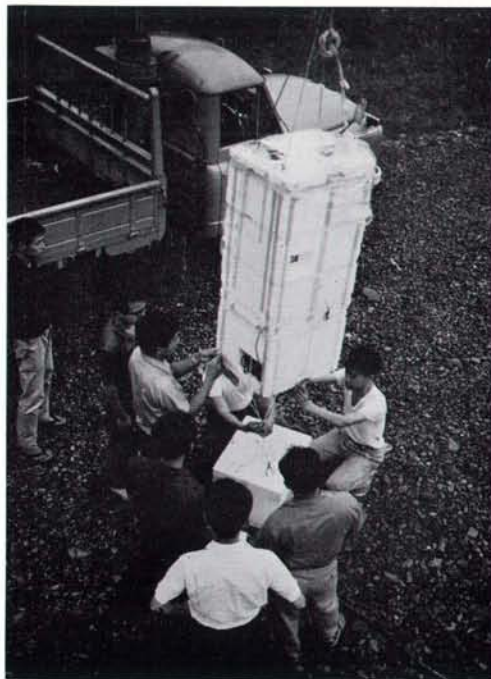
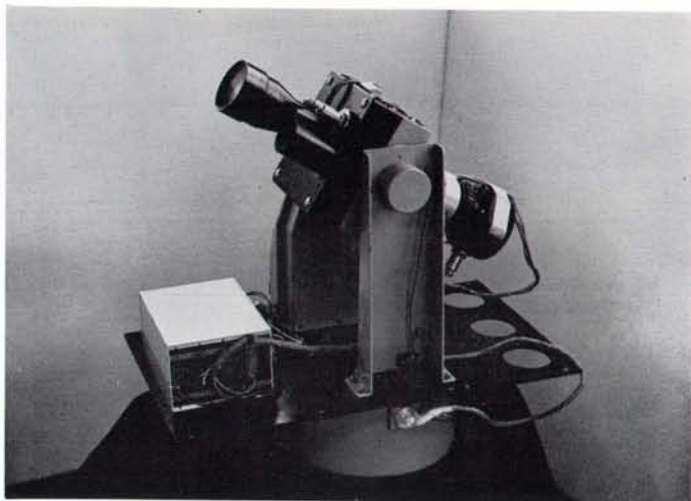
上は東京天文台堂平観測所 91 cm 反射望遠鏡で撮影した 1966 b キルストン彗星，光度約 10 等。露出は 1966 年 8 月 17 日 22 時 42 分から 52 分までの 10 分間，背景はヘルクレス座の星々である。

下は高知市の関勉氏が口径 15 cm の天体写真儀を用いて 1968 年 3 月 4 日 3 時 51 分に撮影した 1967 n 池谷・関彗星，光度約 7 等，背景の星々は同じくヘルクレス座。露出時間は 4 分である。

気 球 観 測 (I)

東京大学宇宙航空研空所では、観測用大型気球の開発、改良を行なう一方、全国各大学、研究所の観測器械を搭載して、宇宙線、天文、地球物理、気象等各分野にわたる観測を行なっている。天文関係ではこれまでに、X線星、銀河X線、太陽、黄道光、大気光、宇宙塵等の観測が行なわれている。

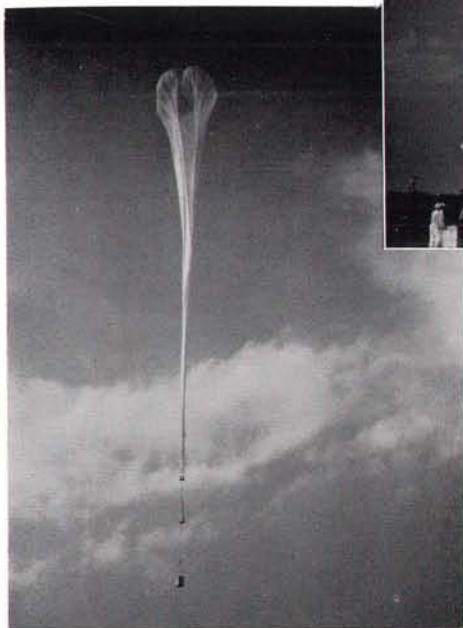
写真(右)は、黄道光光電観測器で、望遠鏡の天頂角が自動的に変わるようになっている。(左下)は放球前にクレーンに吊り下げてテスト中の大気光の可視域および赤外観測器。上空の低温から保護するために、望遠鏡以外の部分は断熱材で覆ってある。下の箱はテレメータ送信器である。(右下)は太陽赤外スペクトル観測装置で上の部分が観測器を常に太陽の方向に向けるための太陽追尾装置(サンフォロワー)で下の部分が観測器である。



気球観測(II)



8月27日14時46分、福島県原町市の東京大学大気球実験場から、東大宇宙航空研究所の「軽量気球開発スケジュール」の中の最大の気球が放球された。気球容積は30000m³で、毎分220mの速度で上昇し高度32kmに達して水平浮游状態になった。21時46分指令電波により観測器を気球より切離し、パラシュートで福島県川俣町付近に降下させた。



(上)は放球準備中で水素をつめ終ったところ、(中)は放球の瞬間、(下)は放球直後上昇中の気球。全長約90mで、下端に動揺計、気圧計等の観測器がついている。